

6. 川口市の教育について

(1) 地域人材活用による開かれた学校づくりについて

本市では、教育改革の取り組みとして、ボランティアを活用した学校づくりに取り組んでおります。児童生徒が職場体験や奉仕活動を行うことで社会の一員としての体験をし、教員も地域貢献活動を行い、一方で市民が学校支援ボランティアとして学校教育をサポートし「学校・家庭・地域」が一体となって教育に取り組む活動を推進しています。

しかし、このような魅力的な事業でありながら、現状があまり知られていないのではないのでしょうか。

地域の人材活用による開かれた学校づくりについては、無償ボランティアである「学校支援ボランティア事業」、有償ボランティアである「かわぐち学校サポートプラン事業」、更には、特色ある学校づくりを推進するためにアシスタント・ティーチャーを配置する「特色ある学校づくり推進校支援事業」があると聞いております。

そこで、質問します。

1点目として、ボランティアを活用した学校作りについての考え方を伺います。

2点目として、学校支援ボランティア事業は、主に教育環境の整備を行う無償ボランティアであるとお聞きしておりますが、昨年度の実績や活動内容などをお聞かせください。

3点目としてかわぐち学校サポートプラン事業は、伝統芸能・工芸など特別な技能を持った方を招聘して学習指導を行うゲストティーチャーのほか、社会人や大学生による学習支援員、水泳指導補助員などがあるようですが、将来教員を目指すような大学生が学校現場を体験することは、人材育成の観点からも大変有意義であると感じますが、実績・効果についてお聞かせください。

4点目として特色ある学校づくり推進校支援事業により配置しているアシスタント・ティーチャーについて、その実績と効果について伺います。

(2) 学校教育費の中の図書費について

学校教育費は各学校に対して一括交付されています。図書購入など図書室にかける費用に関しては、教育の根幹部分でもあることから、十分な費用投入が望まれるところではありますが、枠配分されているため必要備品の年度の内容によっては、必ずしも図書費にあてられないこともあり、学校図書の充実に支障をきたしているとのことご意見を伺いました。

そこで質問です。学校の図書室というのは、児童生徒の個性を発掘する重要な資源であることから、図書費に関しては別枠で配分することはできないでしょうか。